

## New Arrival from Althorp Living History Collection. For 500<sup>th</sup> Anniversary of Althorp.

今回は、オルソープリビングヒストリーコレクションから、オルソーブハウス創建500周年を記念して、500台だけ限定生産されたキャビネットをご紹介します。

このキャビネットは、初代伯爵夫人 ジョージアナ・スペンサー (1737-1814) の為に彼女の子供達が家具工房リチャード&タイト社に特別に製作させて、プレゼントしたことから、ジョージアナデスクと呼ばれております。1783年に、深い敬意と感謝の証として初代伯爵夫人に贈られたこのデスクは、現在オルソーブ南の応接間に大切に置かれています。

時は、まさに新古典主義全盛時代。このデスクの製作を受注した家具工房リチャード&タイト社は、最先端の技術力と斬新なデザイン力を誇り、トーマス・チップendaleやロバート・アダムス等の著名な家具デザイナーや建築家で組織された当時最高の業務形態をもつ会社組織でした。彼らは、この伯爵夫人への贈り物を最高の材料と非常にモダンなデザインで仕上げたのです。後年、このデスクはロンドンのビクトリア&アルバート美術館に於いて「オルソーブの至宝」という展示会で紹介され、多くの出版物に取り上げられました。

今回の限定生産品も稀少なシカモア材を主材に、マホガニー材、柘植材などを使用し、オリジナルさながらにジョージアナの子供達のイニシャルを貝で象嵌するなど豪華な仕上げとなっております。ちなみに右扉の表側中央には、フランス語で“VOUS”と、それを楕円に囲むように4つの“M”をそれぞれ貝象嵌にてはめ込んでいます。これは、“あなたのまわりの4人は、あなたを心から愛しています”という言葉を象徴的に表しています。今回入荷したジョージアナキャビネットは、製造ナンバー13にあたり、現当主9代目スペンサー伯爵の肉筆サインが入った証明書をお付けいたします。

しばしば スペンサー伯爵家は、初代伯爵夫人ジョージアナ・ポインツ (旧姓) に代表される傑出した女性を輩出しています。ジョージアナは、17歳で、スペンサー伯爵家に嫁ぎました。挙式はしごく質素で、オルソーブ内の先代夫人のドレッシングルームで行われました。しかし彼女は、多才を極めた才媛で、ギリシャ語を始めラテン語、フランス語の読み書きができるばかりではなく、今日ロンドンに於いて、18世紀に建設されたタウンハウスとして最も重要な建造物の一つに数えられるスペンサーハウスを、夫ともに創建し家具調度品のすべてを素晴らしいセンスで調えるというインテリアコーディネートの才能も持ちあわせていたのです。

又、彼女は、伯爵夫人として、当時の第一級の芸術家達を保護支援しました。その中には、彫刻家のジョン・フラックスマン(1755-1826年)やドイツ人画家のジョアン・ゾファニー(1733-1810年)がおり、ジョシュア・レイノルズ(1723-1792年)やトーマス・ゲインズバラ(1727-1788年)に至っては、彼女自らがポーズをとり肖像画を画かせる等、まさに彼女は、当時第一級の文化人であったのです。

ジョージアナとジョンの間には、海軍大臣となった2代目スペンサー伯爵ジョージジョン、デヴォンシャー公爵夫人となったジョージアナ、ベズバラ伯爵夫人となったヘンリエッタが生まれました。

彼らは皆ジョージアナの知性と教養を受け継ぎ、語学が堪能で、才能豊かな人材として世に出ていったのです。

特にデヴォンシャー公爵夫人となったジョージアナ・キャヴェンディッシュは、女性政治運動家の先がけとなり、独特のセンスで当時の女性ファッションにも革新をもたらしました。

最近、彼女を主人公とした映画『ある公爵夫人の生涯』(英語のタイトルは、『Duchess』)が、キーラ・ナイトレー主演で製作され、日本でも2009年3月末に試写会が行われます。